

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K11579

研究課題名（和文）中学校武道領域の各資質・能力を相互に結び付けながら育成する剣道授業に関する研究

研究課題名（英文）A study on kendo classes that cultivate each quality and ability in budo area at junior high schools while interconnecting them with each other

研究代表者

本多 壮太郎（Honda, Sotaro）

福岡教育大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：10452707

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：中学校保健体育科の武道領域の剣道授業において、学習者が技術や戦術の個別の知識を構造化し、その知識を活用して技術の習得や技能の向上を図る授業を計画、実践し、その有効性を検討した。第1学年では、基本動作と二段の技の技術ポイント、交代型の攻防戦術、第2学年では引き技と一体型の攻防戦術に関する知識の構造化とその活用を図る授業実践を通して、学習者は短期間で効果的に知識を習得し、技能を向上させることができた。第3学年では、剣道版アダプテーションゲームの開発・導入を通して、学習者が様々な異なる仲間と楽しく本気で取り組むことができ、剣道の楽しみ方を共有する態度を育成することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

3年間の授業研究を通して、中学校各学年でどのような内容を展開していけば系統的で「わかる」と「できる」をつなげる効果的な授業を実施していけるのかを明らかにすることができた。授業実践を成果を基に、ペア、グループ、チームで楽しく基本動作や基本となる技の習得や攻防に取り組むことができる教材を作成し、発表・公開した。このことにより、剣道授業、部活動や地域クラブ活動での初心者学習指導に貢献できるものと思われる。

研究成果の概要（英文）：In kendo classes in budo area of junior high school physical education, classes that students structure individual knowledge of techniques and tactics and apply them to develop their skills were planned and implemented. In classes for the 1st graders, the students structured knowledge of some technical points of basic movements and techniques, and offensive tactics. In classes for the 2nd graders, they structured some technical points of more advanced techniques and tactics. The results of skill tests showed that they could effectively develop their skills in a short period of time. In classes for the 3rd graders, through the development and introduction of kendo version of adaptation game, they were able to have fun and try out adaptation games with various different classmates, and were able to foster an attitude of sharing how to enjoy kendo.

研究分野：体育科教育学

キーワード：体育 武道領域 剣道 知識の構造化 リズム剣道 剣道版アダプテーションゲーム 簡易竹刀 簡易面紐

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

平成 29 年告示の中学校学習指導要領では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の内容が相互に結び付きながら育成される授業改善が推進された。とりわけ知識については、意欲、思考力、運動の技能などの源とされ、中学校第 1・2 学年を例に挙げると、技能との関連において、「知識の理解を基に運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層知識を深めたりするなど、知識と技能を関連させて学習させること」、思考力、判断力、表現力等との関連では、「習得した知識を用いて仲間に課題や出来映えを伝えるなど、学習者が習得した知識を基に解決が可能な課題の提示の仕方を工夫すること」、学びに向かう力、人間性等との関連では、学習者自身が公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する内容を「理解し、取り組めるようにする」ことが指導の際に大切であるとされた。このように体育の授業づくり及び実践においては、これまで以上に知識を基盤とした学習の充実を図ることが求められるようになった。一方で、中学校の剣道授業においては、知識を基盤として生徒がそれぞれの資質・能力を相互に結び付けながら身に付けていく 3 年間の系統的な授業研究報告はなかった。

2. 研究の目的

本研究では、中学校第 1・2 学年の学習者が剣道の基本動作や基本となる技のポイント、攻防の戦術に関する個別・具体的知識を構造化し、その知識を活用して技術の習得や技能の向上を図る授業を計画、実践することとした。また、第 3 学年においては、剣道版アダプテーションゲームの開発・導入を通して、剣道の楽しみ方を共有する意義の理解と態度の育成を図る授業を計画、実践することとした。これらの 3 年間の授業の評価分析を通して、計画、実践した授業内容と展開の有効性を明らかにし、知識を基盤として 3 つの資質・能力を相互に結び付けながら育成する中学校剣道授業に関する有益な資料を作成・提供することを目的とした。

3. 研究の方法

令和元年度の第 1 学年を対象とした 9 時間の授業では、教師の発問や動画資料の活用、対象者の回答の整理等により、対象者が基本打ち（面打ち、小手打ち、胴打ち）に共通する技術的ポイント（基本打ちは全て同じリズムで打てる）、二段の技（面 - 胴、小手 - 面）とフェイント技（面と見せかけて胴、小手と見せかけて面）に共通する戦術的ポイント（相手が 1 つの部位を防御すれば別の部位に隙ができる）に気づき、それらの知識を活用して基本動作や基本となる技の習得した対人的技能の向上を図る授業を実施した。また、基本打ちのスキルテストの実施及び評価基準に基づいた分析、基本打ち習得への取り組みに関する質問紙調査の実施及びテキストマイニングによる分析、交代型の攻防及び試合に向けた攻撃づくりシートへの記述調査の実施及びカテゴリー分析、形式的授業評価の実施及び分析を通して、計画、実践した授業内容、展開の有効性について検証した。

令和 2 年度の第 2 学年を対象とした 8 時間の授業では、教師の発問や動画資料の活用、対象者の回答の整理等により、対象者が基本打ちと引き技（引き胴）に共通する技術的ポイント（基本打ちも引き技も同じリズムで打てる）、中段の構えとつばぜり合いからの隙づくりに共通する戦術的ポイント（中段の構えでもつばぜり合いでも隙づくりの原理は同じ）に気づき、それらの知識を活用して引き胴や一体型の攻防における対人的技能の向上を図る授業を実施した。また、引き胴のスキルテストの実施及び評価基準に基づいた分析、一体型の攻防及び試合に向けた攻撃づくりシートへの記述調査の実施及びカテゴリー分析、形式的授業評価の実施及び分析を通して、計画、実践した授業内容、展開の有効性について検証した。

令和 3 年度の第 3 学年を対象とした 12 時間の授業では、アダプテーションゲーム剣道版を取り入れ、体格や体力、運動能力、性別、技能の程度に関係なく剣道の攻防を共に楽しむとともに、様々な違いを超えて剣道を楽しむ配慮をすることの意義についての理解と理解に基づいた行動を図る授業内容、展開を計画、実践した。また、「アダプテーションシート」への記述調査の実施及び回答の集計、テキストマイニングによる分析、「共生体育態度尺度」（梅澤ほか、2021）による質問紙調査の実施及び分析を通して、計画、実践した授業内容、展開の有効性について検証した。

4. 研究成果

第 1 学年を対象とした授業実践及びデータ収集、分析を通しては、対象者が基本打ちに関する汎用的な知識を習得し、その知識を活用して基本打ちの習得に組み、短期間で効果的に技能の向上が図られたことが明らかになった。対象者による基本打ちのスキルの自己評価においても男女ともに高い評価が示された。また、対象者のチーム内での攻防及びチーム対抗試合への取

り組み意識に関するテキストマイニングの結果からは、攻撃に関する汎用的な根拠や方法についての記述が多く見られ、攻撃づくりシートの記述分析の結果からは、全ての対象者が学習した内容を応用したオリジナルで具体的な攻撃方法を考案できていた。対象者による攻防及び試合の有能感については、高評価群と捉えた対象者が全体の8割を超えるとともに、男子、女子のいずれからも高い評価が示された。このように第1学年を対象とした実践の分析からは、基本打ちや交代型の攻防の「わかる」と「できる」を効果的に結び付ける授業実践であったことが明らかとなった。

第2学年を対象とした授業実践及び及びデータ収集、分析を通しては、対象者が引き技(引き胴)と基本打ち、つばぜり合いと中段の構えからの隙づくりに関する汎用的な知識を習得し、その知識を活用して引き胴の習得に取り組み、短期間で効果的に技能の向上が図られたことが明らかになった。また、全ての対象者が一体型の攻防に向け、自分に適した隙づくりを考案することができた。さらに、形成的授業評価の分析結果からは、対象者による授業評価も「成果」、「興味・関心」、「学び方」、「協力」の全ての次元で肯定的であり、計画、実践した授業の内容及び展開は有効であると評価できるものであった。

第3学年を対象とした授業実践及び及びデータ収集、分析を通しては、ほぼすべての対象者が剣道版アダブテーションゲームにおいて、自分たちで修正ルールを考案することができ、様々な相手と100%の本気度で楽しく試し合いの攻防をできたことが明らかとなった。単元前後に実施した「共生体育態度尺度」(梅澤ほか, 2021)による質問紙調査の結果からは、全12回の授業を通して、対象者の「ちがいの受容」因子における有意な高まり、「過度な勝利志向」因子における有意な低下が認められ、計画、実践した授業は、様々に異なる仲間と協力したり、運動したりすることに関する態度の育成に貢献できるものであった。

これまでの研究の成果は、日本体育科教育学会、日本武道学会、東アジアスポーツ学会で口頭発表、福岡教育大学紀要への投稿、学習指導支援資料(動画教材)の作成により公表した。東アジアスポーツ教育学会での口頭発表は、韓国や台湾の研究者の関心も高く、「Excellent Presentation」の受賞対象となった。学会での発表や論文投稿だけでなく、動画資料を作成したことは、本研究の成果を学校現場に具体的に還元していく上で有効であると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 本多壮太郎、山田弥香	4. 巻 72
2. 論文標題 知識の構造化とその活用を図る剣道授業の評価分析：中学校第2学年を対象として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 福岡教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 117-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 本多壮太郎	4. 巻 71
2. 論文標題 攻防に関する知識の構造化とその活用を図る中学校第1学年の剣道授業の評価分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福岡教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 77-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 本多壮太郎	4. 巻 66
2. 論文標題 知識の構造化とその活用を図る中学校剣道授業の評価分析：基本動作習得への取り組みに焦点を当てて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 体育学研究	6. 最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5432/jjpehss.20059	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 本多壮太郎	4. 巻 22
2. 論文標題 剣道授業用簡易面紐の作製とその有効性に関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゼミナール剣道	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水月晃、榑崎教子、本多壮太郎、則元志郎	4. 巻 45
2. 論文標題 「道」の行方と学校体育：武道と西洋格闘技との比較と学校体育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 崇城大学紀要	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本多壮太郎、榑崎教子、水月晃、則元志郎	4. 巻 69
2. 論文標題 武道教材の授業実践モデル	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福岡教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 71-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本多壮太郎	4. 巻 69
2. 論文標題 知識の構造化とその活用を図る中学校の剣道の授業展開に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福岡教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Sotaro HONDA
2. 発表標題 Practice and examination of inclusive kendo classes in secondary physical education: With focus on students' changes in attitudes towards inclusion
3. 学会等名 The 2022 International Conference for the 10th East Asian Alliance of Sport Pedagogy (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田弥香・本多壮太郎
2. 発表標題 攻防に関する知識の構造化とその活用を図る中学校第2学年の剣道授業の評価分析：攻撃づくりシートの分析を通して
3. 学会等名 日本武道学会第54回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田弥生・本多壮太郎
2. 発表標題 剣道授業での交代型と一体型の攻防における攻撃づくりの記述と学習者が感じる楽しさに関する比較及び検討
3. 学会等名 日本スポーツ教育学会第41回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本多壮太郎
2. 発表標題 安価で手作り可能な剣道授業用簡易面紐の試作
3. 学会等名 日本スポーツ教育学会第41回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本多壮太郎
2. 発表標題 「わかる」と「できる」を結び付ける中学校剣道授業の学習指導法に関する研究
3. 学会等名 日本武道学会第53回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sotaro HONDA
2. 発表標題 A study of long-term effect on motor learning by applying rhythmic movements
3. 学会等名 The 2020 Yokohama Sport Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 本多壮太郎
2. 発表標題 攻防に関する知識の構造化とその活用を図る中学校第1学年の剣道授業
3. 学会等名 日本体育科教育学会第25回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 本多壮太郎
2. 発表標題 構造化された知識の活用を図る剣道の授業展開の評価分析：基本動作習得の取組に着目して
3. 学会等名 日本武道学会第52回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本多壮太郎
2. 発表標題 知識の構造化とその活用を図る剣道の授業展開の評価分析
3. 学会等名 日本体育学会第70回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 岡出美則・友添秀則・岩田靖 編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 305
3. 書名 体育科教育学入門（三訂版）（第 部 第11章 pp.234-241を担当）	

1. 著者名 児童生徒の1人1台のICT端末を活用した体育・保健体育授業の事例集作成委員会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有限会社ヘッドルーム	5. 総ページ数 110
3. 書名 児童生徒の1人1台のICT端末を活用した体育・保健体育授業の事例集（第4章 実践事例9 pp.78-81を担当）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------